

野々市村の発展に貢献した実業家



ふじむらりへい
藤村理平 (1859~1920)

藤村理平は、石川県師範学校卒業後、野々市尋常小学校の校長を勤め、1888年(明治21)には石川県会議員になりました。1894年(明治27)に再当選を果たし、県政の推進役として活躍し、1896年(明治29)から1898年(明治31)までは野々市村の村長として

村の発展に尽くしました。

理平は、実業家の森下森八と共に地域の利益につながる発電計画を立て、1897年(明治30)に金沢電気株式会社を設立しました。幾多の苦節を乗り越えて1900年(明治33)には、犀川上流に念願の辰巳水力発電所が完成し、金沢に電気がひかれました。

電気事業の将来性を信じていた理平は、地元にも電気を導入しなければならないと考え、私財を投げ打って電柱と電線を整備し、翌1901年には野々市村にも電気が通じました。また、電動力による精米場を作り、地元の電化の普及に努めました。

理平は、生涯に渡って、政治、教育、公益事業に尽力して、野々市の発展に大きな業績を残しました。

ふじむらりへいおうしょうとくひ
藤村理平翁 頌徳碑

1935年（昭和10）、町民有志は理平の偉業^{いぎょう たた}を称えるため、野々市尋常高等小学校（本町二丁目）校庭に大きな銅像を建てました。銅像は太平洋戦争で献納^{けんのう}されて台石だけとなりましたが、1974年（昭和49）白山町の老人センター椿荘に頌徳碑として移設、現在は六郎口公園^{ろくらぐち}の一角に置かれています。



明治天皇御小休所 旧藤村家座敷（現田村家）

1878年（明治11）に行われた明治天皇北陸巡幸^{しゅんこう}の際、10月5日朝に福井を目指して金沢を出発した明治天皇は、午前8時6分藤村家に到着し、およそ30分休憩されました。

